

<b>指導展開例</b> <b>防災アプリを通して、防災意識の高まりの必要性を考える授業</b>	小学校
	第6学年
	社会科

**1 教科・学年**                      社会科      第6学年

**2 単元名・題材名**                      「防災の願いを実現する政治」

### **3 授業の位置付け**

北海道胆振東部地震を契機に、防災教育の重要性を再認識し、各学校のカリキュラムの中に効果的に設定する必要性を痛感した。そこで、6年生の政治学習に位置付けられている地方自治の学習において「自然災害からの復旧や復興」を選択して取り上げ、札幌市が地域の実態を踏まえながら政策を決定し、実行していることを具体的に調べることができるような学習の構成を考えた。

学習指導要領において、「国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること」や「政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算とのかかわりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること」を身に付けることができるよう指導する内容が明記されている。

これらの内容を踏まえた上で、6年生の社会科の学習で実践できる防災教育を考えた。

### **4 単元の目標**

- (1) 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、見学・調査したり、各種の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国や地方公共団体の政治の取組を理解することができるようにする。
- (2) 国や地方公共団体の政治の取組と国民生活を関連付けて政治の働きを考え、表現することができるようにする。
- (3) 我が国の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を養う。

### **5 本時の目標**

札幌市が防災アプリ「そなえ」の開発に力を入れた意図を考える活動を通して、政治が市民生活の安定と向上を図る働きをしていることを理解し、市の取組について自分なりの考えをもつことができる。

子どもの学習活動

教師のかかわり

【本時までの学びについて】

札幌市がアクションプランの中で「災害に備えた地域防災体制づくり」に力を入れていることを知り、その取組の一つである札幌市防災アプリ「そなえ」を体験している。

札幌市防災アプリ「そなえ」はどれくらい活用されているのかな？

○札幌市防災アプリ「そなえ」の現状を知る活動

防災アプリ「そなえ」

- ・避難場所の開設状況の表示
- ・浸水や土砂崩れのヴァーチャル体験

2019年11月現在  
45,000ダウンロード

開発費：600万円  
維持費：年間360万円

2年間で約1320万円の税金を支出

とても便利な機能が備わっているよ。

ほとんどこのアプリは知られていないんじゃないかな？

札幌市民の約2.3%

札幌市はこんなに税金をかけてまでどうして防災アプリに力を入れているの？

○札幌市が防災アプリに税金を支出させている意図を考える活動

【アプリがあれば】

- ・避難所の解説状況分かる
- ・ハザードマップもいつでも見られる
- ・今いる場所の危険度体験ができる。

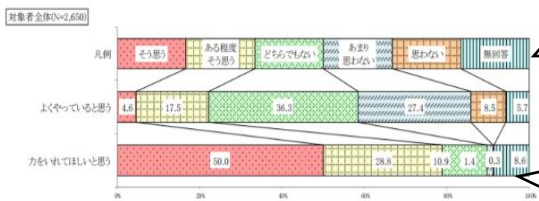
【防災意識の向上】

- ・防災への意識を上げたい。
- ・アプリなら簡単にダウンロードでき、非常時でもすぐに見られる。

気持ちの  
そなえ

○市の取組を自分なりに判断する活動（平成30年第3回市民意識調査を提示）

地震・火災・水害などの防災対策に関する事業について、78.8%が「力をいれてほしい」と回答



もっと防災アプリを広める活動が札幌市として必要だね。

アプリ自体はまだ知られていないけど、札幌市も防災のための取組をしているんだね。

防災アプリを広めていくことで市民の防災意識が高まっていくはずだね。

市の取組を自分たちも知ることが大切だね。

○アプリの開発・維持費用の概算と現時点でのダウンロード数を提示し、1260万円があればどんなことに転用できるのか、非常食や自家発電機の価格から提示する。

セルフチェック1  
(興味・関心・疑問をもてる)

○「アプリのダウンロードが少ないなら、他のことに税金を使ったらいいのでは？」と問う。そうすることで、札幌市がアプリの開発・維持力を入れている意図に問題意識を向けられるようにする。

○札幌市民の防災意識に関する意識調査結果を改めて確認し、防災アプリの有効性を確認する。

セルフチェック5  
(多角的・多面的に考察)

○「アプリならではの良さがあるのだろうか？」と問い、市民の防災意識向上の視点をもてるようにする。

○札幌市の施策に対する市民評価の結果を提示し、市の取組と市民の意識の差を実感できるようにする。

セルフチェック6  
(学びのよさを実感し、次の課題へむかう)

○「この人たちはアプリのことを知っているのかな？」と問うことで、市の施策を知ることの大切さを実感できるようにする。

## 7 実施のポイント

実感の伴った学びにするために、本授業の前にアプリを体験しておくことが必要不可欠である。本単元では札幌市危機管理対策室のアプリ開発に携わった方をゲストティーチャーに迎え、アプリを体験する時間をとった。その体験が子どもの考えの根拠となり、本時でもその時の経験を活用することができた。

## 8 資料 ～札幌市防災アプリ「そなえ」とは～

札幌市防災アプリは平成29年9月から配信が開始された札幌市作成の防災アプリである。このアプリでは、ハザードマップの閲覧はもちろん、災害時の避難所の開設状況や家族の安否確認などを行うことができる。また、危険度体験では自分がいる場所で洪水が起きた時の浸水シミュレーションを確認することや、部屋に居る際に窓ガラスが割れたり、本棚が倒れたりしたときどのような被害が起こり得るのかをカメラ機能を通してAR（拡張現実）体験をすることができる。

札幌市危機管理対策室では、小学生向けに本アプリを体験できる出前授業も実施している。本実践では、この出前授業を単元の中に取り入れた。



## 9 板書

霜月廿三日(水)  
防災の願いを実現する政治

市民の願いはどのようにして実現されているのだろうか？

「そなえ」  
SAPPORO

開発費 600万円  
維持費 320万円  
1320万円

使いすぎ

札幌市は、こんなに税金をかけてまで、  
どうして防災アプリに力を入れているの？

アプリなら  
ほとんどの人が持っている  
避難所の場所  
外国人にも  
時間がかからない  
無料

防災意識が増える。  
身近に命を守る  
災害の備えに助ける準備。  
災害の対策  
友達 → 来見せき  
→ 札幌全体  
矢のつらう 市民の要望

矢のつらうれば...  
ダウンロード数 ↑  
↓  
使える人も ↑  
家族に対する。アプリのよさ

札幌全体の防災意識を高めていく！